

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 24 年 11 月 22 日 (2012.11.22)

【公表番号】特表 2012-507845 (P2012-507845A)
 【公表日】平成 24 年 3 月 29 日 (2012.3.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-013
 【出願番号】特願 2011-533874 (P2011-533874)
 【国際特許分類】

H 0 1 L 31/042 (2006.01)

H 0 1 R 4/48 (2006.01)

H 0 1 R 13/66 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 31/04 R

H 0 1 R 4/48 B

H 0 1 R 13/66

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 10 月 1 日 (2012.10.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

【図 1】本発明の一実施形態に係る建物一体型太陽光発電システムの接続モジュールを示す斜視図である。

【図 2】図 1 の接続モジュールの分解斜視図である。

【図 3】図 1 の接続モジュールの縦断面図である。

【図 4】簡単のためにハウジングを取り外した状態の、図 3 の接続モジュールの導電部材、弾性クリップ、及びリード端子間の接続関係を示す斜視図である。

【図 5】本発明の一実施形態に係る建物一体型太陽光発電システムの接続モジュールの正面図である。

【図 6】図 5 の 6 - 6 線に沿った、一実施形態に係る弾性クリップの断面図である。

【図 7】図 5 の 6 - 6 線に沿った、別の実施形態に係る弾性クリップの断面図である。

【図 8】本発明の一実施形態に係る建物一体型太陽光発電の接続モジュールを示す斜視図である。

【図 9】図 8 の接続モジュールの正面図である。

【図 10】カバーを取り外した状態の図 8 の接続モジュールを示す斜視図である。

【図 11】簡単のためにハウジングを取り外した状態の、図 10 の接続モジュールの導電部材、接続導体、及びリード端子間の接続関係を示す斜視図である。

【図 12】ハウジングを取り外した状態の、図 10 の接続モジュールの導電部材、接続導体、弾性クリップ、及びリード端子間の接続関係を示す斜視図である。

【図 13】弾性クリップ、リード端子及びカバーの組立過程を示す斜視図である。

【図 14】図 9 の 1 4 - 1 4 線に沿った断面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 3 】

図 4 ないし図 6 を参照して、本発明の一実施形態に係る導電部材 3、弾性クリップ 5 及びリード端子 4 間の接続を説明する。図 4 は、簡単のためにハウジングを取り外した状態の、図 3 の接続モジュールの導電部材、弾性クリップ、及びリード端子間の接続関係を示す斜視図である。図 5 は、本発明の一実施形態に係る建物一体型太陽光発電システムの接続モジュールの正面図である。図 6 は、図 5 の 6 - 6 線に沿った、一実施形態に係る弾性クリップの断面図である。

【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 0 】

以下、図 1 1 ないし図 1 4 と併せて、接続導体 1 1 0、導電部材 1 0 3、弾性クリップ 1 0 5 及びリード端子 1 0 4 間の接続関係を説明する。これらの図面において、図 1 1 は、図 1 0 の接続モジュールの導電部材、接続導体及びリード端子間の接続関係を示す斜視図である。ここで、簡単のためにハウジングが取り外されている。図 1 2 は、ハウジングを取り外した状態の、図 1 0 の接続モジュールの導電部材、接続導体、弾性クリップ、及びリード端子間の接続関係を示す斜視図である。図 1 3 は、弾性クリップ、リード端子及びカバーの組立過程を示す斜視図である。図 1 4 は、図 9 の 1 4 - 1 4 線に沿った断面図である。